

ある人では無くして、寧ろ貶謫の身分、少くとも失意の境遇に在つたものゝやうに思はれる。魏は孝文帝の太和十六年に官爵の世襲について改制したことがあるが、爵を世襲することは依然許されたから（魏書官氏志）、丕の一家が敦煌に従つた後に其の中の一人なる太榮が矢張り東陽王と稱して居り、それが永安二年に正王に封ぜられたものではあるまいかとも思ふ。

雲岡の石窟寺は魏の洛陽遷都以前に略ぼ出来上つて居つた筈である。遷都以後此の頃に至るまでに三十餘年を経る。既に敦煌鳴沙山腹に開かれてあつた千佛洞が新たに東陽王に依つて増修せられたに就いては、それが必ず多少とも刺激ともなり、模範ともなつた事であらう。

（昭和二年七月九日稿、歴史と地理第二十卷第一號）

## 焯獸畫書部字本第一集納題

敦煌千佛洞の營造に就きて